

(2) 山田道～大栗峠～和知道



⑥



⑦

⑦合流点から約 300m。ヒカゲノカズラやイワカガミに覆われた快適な古道。

⑥山田道と弓削道の合流点。「文政七申 十月吉日 南無大師遍照金剛 右ゆげ道 左志ろ下」裏面に、「願主 山田村世話方中 助左工門 阿波国行者長治良」とある。文政七申は 1824 年。高さ 130cm、幅 70cm。



⑧

⑧大栗峠。「右 わち 左 しこた」と記された道標である。裏面の「文政七庚申十月吉辰 本願山田村世話人中 阿波国行者長治良」という記載から、「南無大師遍照金剛」と同じ人が作ったことがわかる。この道標は地面に倒れたままになっている。



⑨

⑨大栗峠。慶応元年(1865)の石仏。左の石仏の下部には施主ワチ川合、カンバヤシ志古田、同長野などの銘がある。右の石仏の下部には、「右 志古田わかさ 左 ゆげ 城下」と記され、道標を兼ねている。



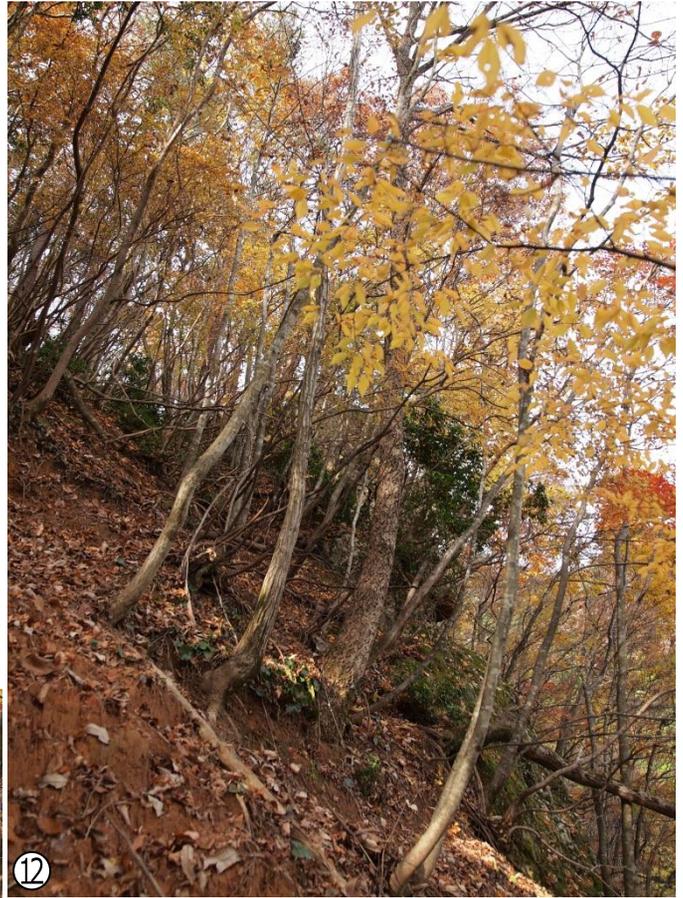
⑩

⑩大栗峠から約 300m。和知側の道は、深く掘れた古道である。

(3) 大栗峠～和知道



⑪峠から約 700m。弘化五年（嘉永元年、1848）と記され、下部に施主である村人たちの記名あり。『北山の峠（下）』には、六地藏があったと記されているが、今は一体のみである。



⑫峠から約 1,000m。古道が尾根の東側を通過する地点は、急斜面で古道が細くなっている。



⑬峠から約 1,300m。和知道の大半は雑木林に覆われ、調査時期は晩秋であったため紅葉が美しかった。



⑭和知側の尾根道の最後まで来ると、尾根の末端で古道が失われている。調査は植林の中、道のない斜面を下った。古道消失地点と林道の標高差は 50m ほどである。古道の消失地点から植林の中でなく尾根の西斜面をくだると、わずかに道の痕跡らしきものがある。「谷を離れ右の斜面に切り返すように上がっていく道がある」（『北山の峠（下）』）、「右へ切り返す形で刻まれていた。取りついてから暫くはガラガラの面白味のない道だったが・・・」（『北山百山』）と合致しているかどうか調査が必要である。



⑮上栗野までは長い林道歩きとなる。途中お堂があるが、石仏は現存していない。『和知の古老談』に書かれている「板戸の地藏」の可能性はある。京丹波町宮バス仏主線「山の家前」から和知駅に行ける。